



**Connected Home Alliance™**

## CONCEPT

コンセプト

# “暮らしのIoT”に、光の道を。

IoTは、モノの持つ意味、そして産業や人の暮らしのあり方を大きく変えていく概念です。

それは、あらゆるモノがつながることで、

単体での価値を越えた有機的なサービスを提供できるようになるからです。

日本においては、各産業界で先行するIoTの導入が、着実に成果を生みだしています。

ところが暮らしに関わるIoT分野については、遅々として進行していないのが現状です。

さまざまな業種の企業が独自の考えのもとに研究や開発を進めているため

各個別に限定的なつながりしか実現しておらず、生活者にとっての“暮らしのIoT”は、

はるか未来のテクノロジーに見えてしまっているかもしれません。

一方で世界の動向に目を向けると、アメリカでは“暮らしのIoT”は「コネクティッドホーム」と呼ばれ、

利用世帯が増え続けています。

この流れは日本にも訪れると考えられますが、現在のように市場全体の足並みが揃わないままでは

生活者が実際に求める利便性やクオリティとは乖離した

不便極まりないIoT環境が誕生してしまいます。

「コネクティッドホーム アライアンス」は、この現状を打開し、

「生活者視点」と「ジャパंकオリティ」を保ちつつ

革新的な“暮らしのIoT”を構築するために設立された

産官学一体のアライアンスです。

業界や企業の垣根を越えて、理想とする未来のビジョンを共有し、

ともに研究・開発をおこなう取り組みの中で、“人びとの暮らしを豊かにする”

世界に誇る新たな社会インフラの創造を目指していきます。

“暮らしのIoT”の理想を指し示す、揺るぎない光の道を生み出すために。

ぜひ、本アライアンスにご参加ください。



水平のラインと  
光の道でアライアンスの  
向かうべき方向を表現。

ロゴマークは、理想の未来を指し示す「光」となる、アライアンスの強い意志を表現。光が垣根のないフラットなつながりを生み出し、見えなかった新たな価値を照らし出すこと。また無彩色とすることで、どの色にも染まらない公平性や、様々なカラーの企業を受け入れる柔軟さを表しています。



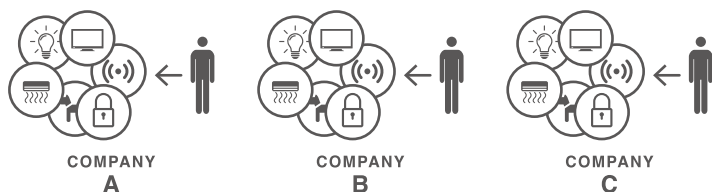
**Connected Urban Form.**

# ALLIANCE

アライアンス

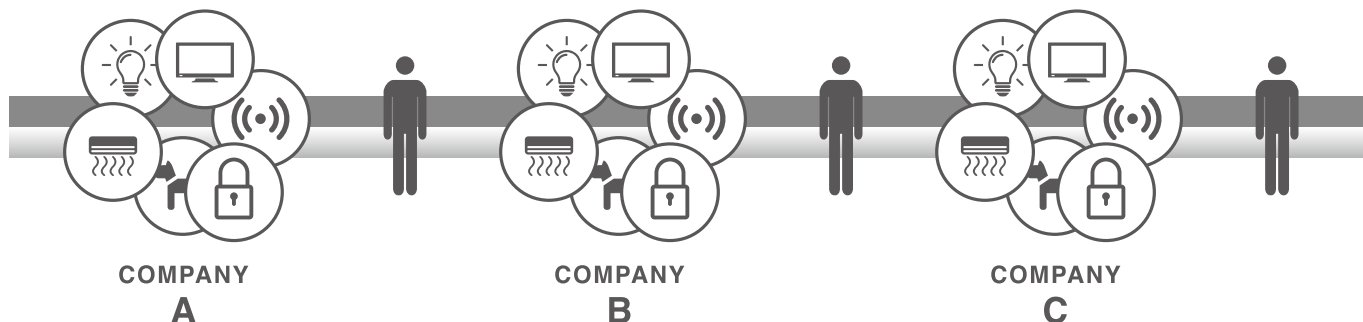
## BEFORE

各企業がそれぞれ独自にサービスを提供しているため、モノとモノのつながりに制限があり、生活者にとって利便性が低い。



## AFTER

アライアンスに参加する各企業が相互につながるサービスを提供するため、生活者は多彩なモノのつながりの恩恵を受けられる。



アライアンスは、多種多様な業界のリーディングカンパニーが垣根を越えて連携することで、「暮らしのIoT」を「生活者視点」で「ジャパンクオリティ」の価値あるサービスを生み出すことを目的としています。

モノとモノのつながりは豊かな住環境を創造するとともに、ホテルやオフィスなどの様々なライフシーンへとその範囲を広げ、都市と人との心地よいつながりも生み出していきます。



image

**Connected Paths.**



## INTERVIEW

インタビュー #1

モノとモノをつなぐだけではない

アライアンスの意義。

新たなサービスを生み出す熱意がつながる場にしたい。

コネクティッドホームという概念を簡単に説明すると、「暮らしのなかにあるモノとモノがネットワークを介して有機的につながり、協調的に働くこと」と言えるでしょう。たとえば、深夜に地震があった際に、ネットワークにつながったモノが緊急地震速報を受信することで、テレビやラジオの電源が入り、照明が点灯し、避難経路のドアや窓が開き、コンロなどの火をつかう機器が停止する、といった対応が同時にできます。また、センサー付きのベッドとトイレがクラウド・コンピューティングとつながれば、居住者の心拍数、呼吸数、体重、尿の成分などの多様なデータを日々蓄積・解析し、なにげなく暮らすなかで健康管理を支援することが可能となります。このようにコネクティッドホームは、私たちの安心で快適な暮らしのクオリティを高めてくれる、素晴らしい可能性を秘めているのです。コネクティッドホームに関する研究は、欧米各国でも盛んにおこなわれています。彼らは、モノの周りにソフトウェアなどで付加価値をつけていくことの重要性、つまり「モノづくりから、サービスづくり」というマインドセットの変換を10年以上前から進め、エンジニアリングを磨いてきました。IoTは、モノ同士をつなげて新しい“サービス”を生み出すことです。日本がこのままモノづくりだけに固執し続けていけば世界の流れに乗り遅れてしまいます。このような動向をふまえると、いまの日本でアライアンスが誕生する意義は非常に大きいと思います。コネクティッドホームを実現するためには、モノ同士をつなぐ技術の連携も必要ですが、それ以上に企業間の垣根を越えて新しいサービスが続々と生まれていくような、熱意がつながる場をつくる必要もあります。様々な企業が生活者の視点に立ち、わいわいがやがやと試作しながら成功体験を積み重ねれば、世界と戦える日本発のコネクティッドホームができるはずです。私が、そんな場づくりのお手伝いできれば嬉しいです。



東京大学 生産技術研究所  
教授

### 野城 智也

Tomonari Yashiro

1957年東京都生まれ。1985年に東京大学大学院工学系研究科建築学科専攻博士課程修了(工学博士)。その後、建設省建築研究所研究員や東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻助教授などを経て、2001年に東京大学生産技術研究所 教授に就任。東京大学生産技術研究所 所長(2009～2012年)、東京大学副学長(2013～2016年)を歴任。  
主な著書:「生活用IoTがわかる本」「イノベーション・マネジメント」

## INTERVIEW

インタビュー #2

# アライアンスがもたらす 社会的な意義と心地よい未来を、 デザイナーならではの手法で伝えていく。

以前の日本社会では、1日のほとんどを職場で過ごす人が多く、物理的にもマインド的にも「会社」が人々の生活の中心でした。ところが近年では、ワークスタイルや志向の変化によりフリーランスで仕事をする人や、企業に属していても自宅で仕事をする人が増えてきました。そうなると、日本人が「家」で過ごす時間のクオリティを一層求めることが予測されています。また、医療やテクノロジーの進歩によって、私たちはますます自分や家族のために時間を使うことができるようになります。そのような社会では、「家」という場の役割も大きくなっていくでしょう。ですから、様々なモノのつながりによって豊かな住環境を生み出そうとする「コネクティッドホーム」の概念は、これからの日本人のスタイルに大きな意味をつくることとなります。20世紀を代表する建築家ル・コルビュジエは「住宅は住むための機械である」という言葉を残し、住まいを“機能”と説いていますが、ネットワークが神経になって多様なモノが有機的につながるコネクティッドホームは、機械を越えた「生き物」と呼べるかもしれません。

私はデザインディレクターとして、デザインが持つ問題解決力で、アライアンスの意義やコネクティッドホームがもたらす心地よい未来を発信していく役割を担っています。「コネクタすることで生まれる利便性とは?」「ある心地よさを体現させるコネクタとは?」ここから生まれる価値は新たな産業を創発させます。

目新しい製品や機能を闇雲に生み出すのではなく、私たちの日常に自然に技術が取り込まれ、便利に快適になっていく。現在の延長線上に、アライアンスが目指す暮らしがあります。モノとモノだけでなく、人・都市・社会をつないでいくスケールの大きな取り組み。さらに、このつながりは私たちの暮らしに還元される非常に意義深いものです。デザイナーであり一人の生活者でもある私なりの視点で、アライアンスと社会を上手にコネクタできるよう力を尽くしていきたいと考えています。



フラワー・ロボティクス株式会社  
代表ノロボットデザイナー

## 松井 龍哉

Tatsuya Matsui

1969年東京生まれ。1991年日本大学藝術学部卒業後、丹下健三・都市・建築設計研究所を経て渡仏。科学技術振興事業団にてヒューマノイドロボット「PINO」などのデザインに携わる。2001年フラワー・ロボティクス社を設立。ヒューマノイドロボット「Posy」「Palette」などを自社開発。現在、自律移動型家庭用ロボット「Patin」を開発中。2017年よりヨーロッパ各地の美術館／博物館にて開催される巡回展「Hello, Robot」展に出展中。ニューヨーク近代美術館、ベネチアビエンナーレ、ルーヴル美術館パリ装飾美術館等でロボットの展示も実施。

iFデザイン賞(ドイツ)、red dotデザイン賞(ドイツ)など受賞多数、日本大学藝術学部客員教授、グッドデザイン賞審査委員(2007年～2014年)。

## COMMENT

参画予定企業コメント



株式会社ぐるなび  
Gurunavi, Inc.

<https://www.gnavi.co.jp/>

ぐるなびは「日本の食文化を守り育てる」という理念のもと、新たな事業展開やサービス開発を進めています。IoTによる革新を事業に取り入れることで、飲食店には今以上にスマートな業務環境を実現し、ユーザーには多様化するニーズにきめ細かなサービスを提供できるようになると期待しています。このたびのアライアンスへの参画を通じて、飲食店と家庭をより密接につなぎ、食を通じて人々の生活をより一層豊かにしていくことに貢献していきます。



東京急行電鉄株式会社  
TOKYU CORPORATION

<http://www.tokyu.co.jp/>

東急電鉄は「街づくり」の会社です。街と、街に住む人びとに、より豊かで快適な暮らしをご提供したいと願い、生活サービス事業を柱に様々な取り組みを行っております。コネクティッドホーム アライアンスが目指すのは、あらゆる人・企業・モノが繋がることでデザインされる新しい世界。私たちはアライアンスに参加するたくさんの仲間とともに、10年後の人びとの暮らし、街の姿を想像し、日本の明るい未来を形にしていきます。



日本マイクロソフト株式会社  
Microsoft Japan Co., Ltd.

<http://www.microsoft.com/ja-jp/>

マイクロソフトは“Empower every person and every organization on the planet to achieve more”を企業ミッションとし日々研究開発し、製品サービスを提供しております。様々な分野でAIやIoTなどの技術活用が進んでいく世の中で、暮らしの中にもこれら技術を取り込むことで、人々の暮らしを豊かにし、より多くのことを実現いただける世の中を目指しております。アライアンスに参加することで、多くの参加企業の皆様と、よりよい暮らしを実現できる世の中を作っていきたいと考えております。



パナソニックグループ  
Panasonic Group

<http://www.panasonic.com/jp/company/psj/>

パナソニックグループはコネクティッドホームに関わる様々な製品やAI、IoT技術の開発を進めています。しかしながら、新しい生活サービスの実現、普及には異業種のトップ企業の皆様と連携した標準化、サービス検証などが必要だと考えています。そのためにも、今回のアライアンス活動を通じて、人々の暮らしを豊かにする新たな生活サービスの創造、それによる A Better Life , A Better Worldの実現を推進していきたいと思っております。



株式会社ビックカメラ  
BICCAMERA INC.

<http://www.biccamera.co.jp/>

ビックカメラは、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指しており、より多くのお客様に、「くらしのIoT」ともいえるべきコネクティッドホームの進展を支える多様な製品・サービスに触れて、選んでいただける場を提供していきたいと考えております。このアライアンスへの参加を通じて、業界の垣根を越え様々な企業の皆様と力を合わせて、便利で快適で安心できる新たなくらしづくりに貢献してまいります。



三菱地所グループ  
MITSUBISHI ESTATE GROUP

<http://www.mec.co.jp/>

HEMSやホームエージェント導入等の個別テーマによるイノベーションには限界があり、今回それらを横断的に検討できる場を得られたことに大きな意味を感じています。アライアンスには住宅や住設機器を供給する立場に限らない、幅広い業界からの視点と知見が結集することを期待します。顧客目線に根差したコネクティッドホーム実現をデベロッパーの新しい使命と捉え、先進的ライフスタイルの提案という新たな付加価値創造を目指します。



美和ロック株式会社  
MIWA LOCK

<http://www.miwa-lock.co.jp/>

日常生活の中で鍵を開ける、閉めるといったごく自然の行為。「ドアロック」がこの活動から生活に彩りを添えるトリガーとなる事をアライアンスの皆様方と目指していきます。世界数千年の鍵の歴史に日本の革新的な技術と確かな品質をもとに、このIoT時代にふさわしいロックの姿を見だし、コネクティッドホームの普及に情熱を持って取り組んで参ります。世界一安全で安心、そして快適な生活をお約束する扉はすぐそこまで来ています。



株式会社LIXIL  
LIXIL Corporation

<http://www.lixil.co.jp/>

LIXILは世界中の人々の豊かで快適な住まいと暮らしの実現を目指し、住宅建材・設備機器や住関連サービスを展開しています。しかしながら、これからの日本の住まいに関わる社会課題を解決し、安全性・利便性・快適性などを高めた住生活の向上を目指すためには、LIXILが持つ製品・サービスの提供にとどまらず、暮らしに関わるすべての業界との連携が不可欠になります。アライアンスに参画することで、人々の暮らしに密着したリーディングカンパニーと共にコネクティッドホームを実現し、より豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。



# OUTLINE

概要・活動内容・お問い合わせ

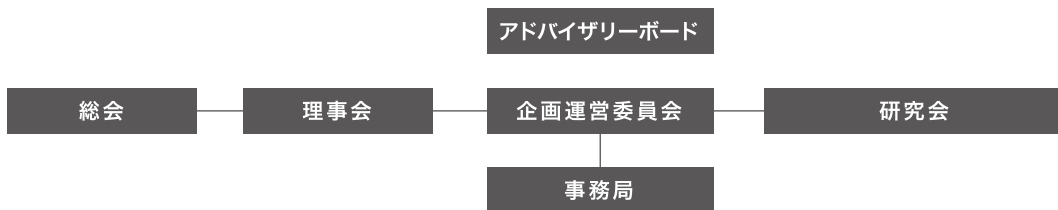
## ORGANIZATION

組織概要

名称	コネクティッドホーム アライアンス
特別顧問	東京大学 生産技術研究所教授 野城 智也 氏
デザインディレクター	フラワー・ロボティクス株式会社 代表/ロボットデザイナー 松井 龍哉 氏
アライアンス 参画予定企業	電機関連各社 住設関連各社 ハウスメーカー各社 家電小売各社 総合不動産各社 IT/WEB各社 商社各社 ホテル各社 等
事務局	コネクティッドホーム アライアンス事務局(株式会社日本経済広告社内)

## ORGANIZATION CHART

組織図



## ACTIVITY CONTENTS

活動内容

<b>産官学一体となった 技術研究・サービス開発</b>	<b>コネクティッドホームの 技術・トレンドの情報共有</b>	<b>コネクティッドホームの 認知・普及の促進</b>
○定期研究会の開催 ○サービス開発に向けた実証実験	○定期レポートの発行 ○最新テクノロジー見学・研究ツアーの開催	○ウェブサイトを通じての情報発信 ○コネクティッドホームイベントの開催

## STUDY GROUP THEME

研究会テーマ(例)

<b>オープンシステム研究会</b>	<b>宅配・物流研究会</b>	<b>高齢者ケア・介護研究会</b>
<b>災害時対応研究会</b>	<b>ペット研究会</b>	<b>データ活用研究会</b>

アライアンスの参加には年会費がかかります。詳細については、以下事務局宛にお問い合わせください。

### コネクティッドホーム アライアンス事務局

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-10 日本経済広告社ビル6F  
TEL 03-3292-0105 | FAX 03-3292-0106 | MAIL info@connected-home.jp

### Connected Home Alliance Office

2-10, NIHON KEIZAI ADVERTISING CO.,LTD BLD.6F, KANDAOGAWAMACHI, CHIYODA-KU, TOKYO, 101-0052 JAPAN  
TEL +81-3-3292-0105 | FAX +81-3-3292-0106 | MAIL info@connected-home.jp

<http://connected-home.jp/>

※お電話での受付時間は、平日の10:00~17:00となります。(土日祝日および年末年始を除く)